

令和7年度 長崎県立諫早商業高等学校 職員自己評価表

教育方針	①商業の知識と技術を習得させ、時代の変化に順応し創造できる力と、共創しながら社会に貢献できる力を育成する。(商業科) ②専門学科で培った知識や技能を活用し、共生社会の担い手としてグローバルな視点で他者と共創できる力を育成する。(国際コミュニケーション科) ③高度IT社会で活躍するために必要な基本的知識・技術を習得させ、実践的な活用能力を育成する。(情報科)
教育目標	(1)専門的・実践的な知識・技能を活かしながら、周囲と協働し論理的に課題解決策を他者に発信できる力を育み、将来、ビジネス社会のリーダーとして活躍できる人材を育成する。 (2)一人一台端末を積極的に利用しながら個々の生徒の情報活用能力を高め、自ら学ぶ姿勢を育てる。また、礼節を重んじ伝統を重視し、部活動と学習の両立を奨励して文武両道の精神を養い、地域に信頼される学校を目指す。 (3)地域の企業との協働学習に取り組み、より実践的な学びを実践する。また、外国語学科を持つ本校の強みを活かし、所属するALT(英語、中国語)および講師(韓国語)による「世界の文化等について」特別授業を実施してグローバルな視点の育成を図る。
キャッチフレーズ	長所を伸ばす 長所を活かす
重点目標	○主体的・対話的で、お互いに深め合う学びの充実 ○多様性を受け入れ、共生社会を構築できる懐の深い生徒の育成 ○生徒の決定を承認し、生徒の主体的な活動を促す指導 ○安全・安心な学習環境の整備と施設設備の有効活用

【評価分野】1 学校経営				
評価項目	目標	具体的方策	評価	
			昨年度	今年度
①学校教育目標	学校の実態に即した目標が設定され、教師間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	前年度の本校教育課題や生徒の実態を踏まえた適切な重点目標を設定する。	3.3	3.2
		校務分掌及び学年の経営方針にも学校教育目標を具現化する方策を盛り込んで実践する。	3.4	3.4
		目標達成の度合いを年度途中で評価・確認する機会を設け、その後の教育活動に生かす。	3.3	3.1
②学校経営方針	経営方針が学校内に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	本校の教育課程を明確にして、中期的な学校ビジョンを検討する。	2.9	2.8
		各教職員が経営方針を意識して教育活動を展開する。	3.3	3.3
		教育方針や経営方針を生徒・保護者・地域等に説明したり、情報を流し、宣伝したりする機会を設ける。	2.7	2.5
③学年経営	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標を教員・生徒へ浸透させ、その目標達成のための教育活動の展開を図る。	3.1	2.5
④学級経営	学校目標及び学年目標に沿った学級づくりを行う。	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	2.9	2.9

【評価分野】2 教育活動				
評価項目	目標	具体的方策	評価	
			昨年度	本年度
①教科指導	指導方法に創意工夫がなされた授業を行う。	生徒の実態に応じてICTの活用や協働学習を取り入れるなど指導方法を工夫する。	3.4	3.2
		習熟度・添削等、個に応じた指導を行い、学力向上に取り組む。	3.4	3.2
	生徒の実態に応じて教材の精選や工夫、教具の活用を行う。	生徒の主体的な学びを促す適切な課題を提供する。	2.1	3.0
		目的を持った資格取得を促し、生徒全員が2種目以上の資格を取得できるようにする。	2.9	2.7
②課題研究 総合的な学習	教職員の共通理解のもと適切な評価を行う。	課題研究・総合的な探究の時間は地域や学校の特性を生かしたものにしている。	2.5	2.6
③特別活動	生徒の自発的・自主的な活動を行う。	年間計画に基づいたHR計画を立て事前準備を行い、活発なHRを展開する。	2.5	2.6

【評価分野】2 教育活動(前ページより続く)				
評価項目	目標	具体的方策	評価	
			昨年度	本年度
④生徒指導	生徒理解に基づき、全教職員できめ細かな生徒指導を行う。	生徒の面談を各学期に1回以上行う。	2.8	2.6
		教育活動全般をとおしてマナー指導を行う。	3.1	3.0
⑤進路指導	系統的・計画的な進路指導を行う。	卒業時に生徒の進路目標を100%達成する。	3.3	3.0
		多様な進路先に対応するために情報収集をおこない、生徒や保護者に適切に情報の提供を行う。	3.4	2.9
⑥健康・安全教育	健康・安全な生活を送るための指導を行う。	身の回りの安全と健康に配慮しながら心身ともにたくましく育て、欠席者を減らす。	3.1	3.0
⑦人権教育	カウンセリング・マインドを持って生徒の相談に応じる。	人権に対する認識を高め、生徒・保護者との信頼関係を作り上げる。	3.2	3.0
		問題行動等について、組織的かつ適切に対応する。	3.4	3.1
⑧部活動	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。	部活動ガイドラインに沿った指導を行い、部活動の活性化を図っている。	2.9	3.0
【評価分野】3 組織運営				
評価項目	目標	具体的方策	評価	
			昨年度	本年度
①校務分掌	各分掌の業務を均等化する。	前年度の各分掌の課題を確認し、その課題解決を図り検証する。	3.0	3.1
		教職員の分掌による仕事量をできる限り均等化する。	3.0	2.8
②校内研修	各種の校内研修を計画的に実施して職員の意識を高める。	各学期に1回以上、各分掌や各教科において、研修会等を実施する。	3.0	2.9
③現職教育	計画的・組織的に授業研究等を行い、生徒に分かる授業を展開する。	公開授業や研究授業を各教科において学期に1回実施する。	2.1	2.0
④いじめ対策	いじめ対策強化	いじめ対策基本方針に基づき、いじめの早期発見と対応を行う。	3.4	3.2
【評価分野】4 教育環境				
評価項目	目標	具体的方策	評価	
			昨年度	本年度
①学校環境の整備	日々の清掃を徹底し美化意識を高める。	地域清掃活動を学期に1回以上行い、ボランティア意識を高める。	3.2	2.8
②施設・設備の管理	施設・設備の有効な活用が図られ、安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の定期点検を学期に2回以上行い環境整備に努める。	2.9	3.3
		光熱水費・通信費を前年比の-5%に抑える。	3.3	2.6
③情報インフラの整備・充実	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	校務処理にICTを活用し、情報発信やアンケートにコミュニケーションツール(Teams Classi CMS SNS)を活用する。	2.7	3.4
【評価分野】5 開かれた学校づくり				
評価項目	目標	具体的方策	評価	
			昨年度	本年度
①保護者との連携	生徒に関する情報の相互交換を密にする。	保護者への情報提供を積極的に行う。	2.4	2.8
		学校方針や教育活動についての情報を保護者等へ積極的に提供する。	2.4	2.0
②地域や関係機関との連携	関係機関との連携を図る。	近隣地域の高校・小中学校・関係機関との情報交換や連携を図る。	2.9	2.6

【成果と課題等】

- 重点目標(1)授業等でのICT活用は進んでいる。授業の満足度を高めるためには対話を取り入れた授業実践や生徒が学ぶ目的を理解し、授業に積極的に参加し、主体的な資格への挑戦をうながす仕掛けが必要である。
- 重点目標(2)前年度より転学者は少なくなった。学校行事や各種活動で他者理解や自己肯定感が高まりつつある。授業・LHR・部活動など教育活動全般で全職員で生徒支援に取り組む体制づくりが求められる。
- 重点目標(3)生徒会役員を中心に生徒主体で運営がなされている。学校運営は教員主導となっており、生徒の主体性を促すためにも生徒に考えさせる時間を与え、生徒の決定を尊重する仕組みの構築が必要である。
- 重点目標(4)月1回の安全点検等により環境整備が行われている。コミュニケーションツールの活用も一定の役割を果たしている。

